印西市企画提案型協働事業　事後評価シート（比較表）

記入日　令和7年5月14日

記入団体名　NPO法人ハートフル コミュニケーション千葉エリア

※市の場合は、所管部署名

記入責任者名　福田　潔子

記入日　令和7年5月14日

記入団体名　子ども家庭課

※市の場合は、所管部署名

記入責任者名　小森谷　幸一

1．事業概要

事業名称		子育てを学ぼう！乳幼児期から始める子どもの心のコーチング
事業の実施者	実施団体名	NPO法人ハートフルコミュニケーション千葉エリア
	所管部署	子ども家庭課

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	①．実施した	2．しなかった		
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。					

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	①．した	2．しなかった		
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。					

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	①．実施した	2．しなかった		
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。					

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	①．した	2．しなかった		
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。					

記入団体名　NPO法人ハートフル
コミュニケーション千葉エリア

協働事業実施中

設問		回答			
Q9	事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	(1.) 行った　　2. 行えなかった			
Q10	当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q11	当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q12	打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	(1.) 残した　　2. 残さなかった			

不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。

協働事業実施後

設問		回答			
Q13	成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
				○	

成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。

成果をどのように広く市民に共有するか？ということについて、計画を立てていなかった。
市民活動支援センターには口頭にて成果を報告したが、文章や報告書などの提示はしていない。

Q14 役割や責任分担は適切でしたか。　(1.) 適切　　2. 適切でない

回答の理由を詳しく記入してください。

講座の準備や実施中は、役割について確認しながら実施し、
特に問題はなく、業務を遂行できた。

Q15 資金負担は適切でしたか。　(1.) 適切　　2. 適切でない

回答の理由を詳しく記入してください。

予算内で業務を遂行できた。

記入団体名　子ども家庭課

協働事業実施中

設問		回答			
Q9	事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	(1.) 行った　　2. 行えなかった			
Q10	当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q11	当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q12	打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	(1.) 残した　　2. 残さなかった			

不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。

協働事業実施後

設問		回答			
Q13	成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		

成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。

参加者同士で情報の交換ができる場を設け、それぞれの気持ちや考えなどに耳を傾けていく中で、ひとりひとりに合った親子間における適切な関係性の構築方法について考え、参加者同士で気持ちの共有を図った。

Q14 役割や責任分担は適切でしたか。　(1.) 適切　　2. 適切でない

回答の理由を詳しく記入してください。

協働事業計画書の役割分担通り実施し、スムーズに事業を運営することができた。

Q15 資金負担は適切でしたか。　(1.) 適切　　2. 適切でない

回答の理由を詳しく記入してください。

企画提案型協働事業経費内訳書のとおり実施することができた。

記入団体名　NPO法人ハートフル
コミュニケーション千葉エリア

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

協働事業実施後

設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	○			

実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

計画通りの講座の回数、内容を実施できた。

設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。		○		

達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

達成できた点：講座の回数、参加者の満足度はかなり高かった点。
達成できなかった点：乳幼児期の連続講座が、1回目が始まるときに定員に達していなかった(定員10人のところ5人の申し込み）講座開始後、口コミなどで参加者が増え、最終的に目標の6人には達したが、本来予定していた人数には達しなかった。

設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q18 経費の支出は適切でしたか。	○			

適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。

設問	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	○			

効果があった点や課題を具体的に記入してください。

・それぞれの役割を明確にしたことで、より専門性を発揮でき、効率的に事業にあたれた。
・チラシ作成を引き受けることによって、内容をより適切に表現でき、市の負担を減らせた。
・集客に対し、市の広報ツールと、団体の広報ツールの両方を利用することができた。

設問	回答
Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	(1.) 思う　　2．思わない

改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。

改善が図られた点：乳幼児期（子どもが0歳の親）に対する子育てのやり方を具体的に学ぶ場を提供でき、参加者の子育ての選択肢を増やすことができた。子育てでの悩みを共有することで親の不安を解消し負担感を軽減することができた。連続講座である意義が発揮できた。
課題：0歳児の親への周知方法

記入団体名　子ども家庭課

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

協働事業実施後

設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	○			

実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

年間事業スケジュール通り講座を開催することができた。

設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。			○	

達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

講座後の参加者アンケートの結果から事業目的は達成できたと考えるが、どの講座も申込者数が定員に達しなかった。
・思春期子育て講座：定員20人（申込者数14人）
・乳幼児期子育て講座：定員20人（申込者数17人）
・乳幼児期子育て連続講座：定員10人（申込者数6人）

設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q18 経費の支出は適切でしたか。	○			

適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。

設問	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。		○		

効果があった点や課題を具体的に記入してください。

講座後の参加者アンケートにおいて、「日頃の自分の育児方法を振り返ることができて良かった。」、「こどもの反抗期に悩んでいたので、いろいろな話を聞くことができ、本当に参加して良かった。」、「他の人の考えを聞くことで、学ぶことがとても多かった。」などの前向きな意見が多く見られた。

設問	回答
Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	(1.) 思う　　2．思わない

改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。

課題として、どの講座も申込者数が定員に達しなかったため、対象者や周知の方法等について、検討が必要であると考える。

記入団体名　NPO法人ハートフル
コミュニケーション千葉エリア

今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
来年度も、乳幼児期向けの連続講座を開催する。さらに、学童期向けにも、連続講座を開催し「親が学ぶ」ことにより、子育てがより楽しくうまくいく経験を広げていきたい。

記入団体名　子ども家庭課

今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
引き続き、連続講座を通じて、同じ悩みや不安を抱える保護者同士が相互に悩みや不安を相談し、情報の交換ができる場を設けることで、親子間における適切な関係性の構築を図り、児童虐待の未然防止につなげていきたいと考える。

印西市企画提案型協働事業　事後評価シート（比較表）

記入日　令和7年5月6日
記入団体名　印西・地域猫 友の会
※市の場合は、所管部署名
記入責任者名　増田葉子

記入日　令和7年5月14日
記入団体名　環境保全課
※市の場合は、所管部署名
記入責任者名　植木　浩

1．事業概要

事業名称		地域猫活動普及啓発事業
事業の実施者	実施団体名	印西・地域猫友の会
	所管部署	環境保全課

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	☑1．実施した　2．しなかった			
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。					

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	☑1．した　2．しなかった			
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。					

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	①実施した　2．しなかった			
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。					
野良猫の苦情が多いため、野良猫のトラブルを減らす有効な手段となるか留意した。					

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	①した　2．しなかった			
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。					
地域猫活動と単なる野良猫の餌やり等との違いに対して、地域住民の理解を得ることが可能か。					

記入団体名　印西・地域猫 友の会

	設問	回答			
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	☑1. 行った　2. 行えなかった			
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	1. 残した　☑2. 残さなかった			
	不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。				

	設問	回答			
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。				
	「成果の共有」と情報発信がうまく結びつかないが（誰に向けての情報発信でしょうか？）、広報いんざいのほか、SNSでも事業内容を発信してもらえた。協働で実施したトークショーでは、市の事業についても広報できる機会を設定することができた。				
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	☑1. 適切　2. 適切でない			
	回答の理由を詳しく記入してください。				
	十分な協力が得られた。また、協働事業を通じて、地域猫活動の重要性を理解してもらえたと考えている。				
	Q15 資金負担は適切でしたか。	☑1. 適切　2. 適切でない			
	回答の理由を詳しく記入してください。				
	これまで手弁当だっのボランティアだった部分に委託費をいただけ、会の運営基盤も強化できた。				

記入団体名　環境保全課

	設問	回答			
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	(1) 行った　2. 行えなかった			
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	(1) 残した　2. 残さなかった			
	不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。				
	「地域猫活動」普及啓発事業の一つである猫被害のある地域での地域猫活動を展開できるようにサポートする事業は「地域猫不妊去勢手術助成金」を使い「地域猫活動」を促進する事業のため助成金が早期に不足したことから予定を下回った。				

	設問	回答			
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。				
	以前は不妊去勢手術助成金を活用できる団体が少なかったが、予算額に到達するまで、助成金を活用する団体が増加した。				
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	(1) 適切　2. 適切でない			
	回答の理由を詳しく記入してください。				
	企業協力を得てカインズで行った普及啓発イベントは、実施団体が企画立案を行い、市が企業と調整を行ったため、役割分担は適切だったと考える。また、実施団体が作成した啓発物資の「地域猫活動ルールブック」を活用し、地域住民に対して地域猫活動の認知度が向上したと考える。				
	Q15 資金負担は適切でしたか。	(1) 適切　2. 適切でない			
	回答の理由を詳しく記入してください。				
	普及啓発イベントの報償費、普及啓発物資の作成費は適切であったと考える。また、地域猫活動サポート事業、猫被害改善事業については、実績に対して委託費が支払われるため適切であったと考える。				

記入団体名　印西・地域猫 友の会

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

協働事業実施後

設問	回答			
	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	○			

実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

手術助成金に申請が殺到し、協働事業として申請できない相談事例があり、予算通りのサポート活動ができなかった。
「地域猫活動実践ルールブック」の発行が遅くなり、サポート活動に十分に活用できなかった。

	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	○			

達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

助成金がなくなったことで、申請できない相談があり、予算通りの回数ができなかったが、11件申請し、9件のサポート活動が成立している。また、講演会は、カインズホームと共催となり、多くの来場者を迎えてトークショーを実施できた。「地域猫活動実践ルールブック」をトークショーで配布できた。

	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q18 経費の支出は適切でしたか。	○			

適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。

	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	○			

効果があった点や課題を具体的に記入してください。

協働事業により、市の活動への理解を大きく進めることができ、自治会連合会への広報やSNSを通じた市民への啓発など、県内でもトップクラスの動物愛護政策を実施していただけるようになったと思う。

Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	☑1．思う　　2．思わない

改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。

地域猫活動への理解が進んだことで、助成金に申請が殺到するようになった。助成金の奪い合いを招いたことが、残った課題というよりも新たに生じた課題である。

記入団体名　環境保全課

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

協働事業実施後

設問	回答			
	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。			○	

実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

適正飼育の普及啓発イベント、啓発物資の作成は計画通りできたが、地域猫活動サポート事業、猫被害改善事業については、不妊去勢手術助成金を活用できないと実施できないため、計画どおりに実施できなかった。

	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。			○	

達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

成果目標（講座開催数や人数、草刈り等の回数、発行回数、配付数量等）を具体的に示しながら、達成状況を記載してください。
・普及啓発イベント1回を予定通り行えた。
・地域猫サポート事業用の資料を500部作成し、地域住民に説明することができた。
・地域猫活動サポート事業は36回に対して7回の実施となった。
・猫被害改善事業は5回に対して2回の実施となった。

	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q18 経費の支出は適切でしたか。		○		

適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。

該当なし

	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。		○		

効果があった点や課題を具体的に記入してください。

普及啓発イベントの開催では、実施団体の知見を活かした企画立案やネットワークを活かした開催により盛大に行うことができた。また、地域猫活動の認知の向上については、地域住民に対して実行経験を踏まえた説明を行うことができた。

Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	①．思う　　2．思わない

改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。

実施団体の地道な説明により、地域猫活動が認識され、単なる野良猫の餌やり等に対する苦情相談が減少した。
①地域猫活動サポート事業、②猫被害改善事業は、不妊去勢手術助成金を受けないと実施できない点が課題となる。

記入団体名　印西・地域猫 友の会

今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
協働事業の終了後に、市に寄せられる猫被害の相談にどのように協力していけるのか、未協議で見通しがたてられないが、まずは2年目もしっかりと市民へのさらなる啓発に取り組んでいきたい。

記入団体名　環境保全課

今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
一部の事業について、不妊去勢手術助成金を活用しないと実施できないため、協同事業の実施方法等、検討の必要がある。

印西市企画提案型協働事業　事後評価シート（比較表）

記入日　2025年5月7日
記入団体名　NPO法人亀成川を愛する会
※市の場合は、所管部署名
記入責任者名　小山　尚子

記入日　令和7年5月15日
記入団体名　都市整備課
※市の場合は、所管部署名
記入責任者名　野村

1．事業概要

事業名称		市民参加で守る別所谷津公園の谷津の生態系
事業の実施者	実施団体名	NPO法人　亀成川を愛する会
	所管部署	都市整備課

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	①．実施した		2．しなかった	
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。					

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	1．した		2．しなかった	
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
				○	
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。					
協働事業のイベントや調査が多かったこともあり、きちんと情報共有しないまま、進めたものもあった。					

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1．実施した		2．しなかった	
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。					

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	1．した		2．しなかった	
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。					

記入団体名　NPO法人亀成川を愛する会

	設問	回答
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1．行った　2．行えなかった
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	1．残した　2．残さなかった
	不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。	
	打ち合わせ事項について、会としての記録は残したが、市側と共有しなかったので、次回から検討する。	
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた　できた　不十分：○　全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。	
	事業については、イベントごとにスクリレ配信およびちらし各戸配布などを実施した。報告については、SNSを通して市民に発信した。協働事業のイベント予告については、市のスクリレ配信やホームページのリンクなどで市民に知らせることができるが、結果内容についてはどうなのだろうか。フェイスブックとブログに逐次報告をしているので、こちらも市のホームページなどとリンクしてもらえるとより多くの市民に情報提供できるのではないかと思量する。ワークショップなどの意見交換などについては、まとめを参加者に配信した。動画配信などの市民が見てくれる手段を使うなど提案はあるが、そこまでの人員が足りないのが実情である。事業の成果は今後現れてくるであろうから、その時の発信方法等について検討する。	
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	都市整備課、環境保全課と、役割が異なる課であるため、会としてはとまどうこともあったが、少なくとも市と当会の役割分担は適切であったし、責任も果たせた。	
	Q15 資金負担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	どちらともいえない。実際は、事業を進める上で、会の費用負担が大きくなったことは否めない。当会の活動人員の数は相当なものと考えるが、それが適切な内容であるとすれば、会員への交通費程度の支給をしたいと願う。しかしながら、当初の会の予算要求が控えめであったことから、会の問題であり、次年度にそれを追加した。機械修理など、他の助成金で賄うことになったが、収支決算については、ほぼ請求通りで行った。	

記入団体名　都市整備課

	設問	回答
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1．行った　2．行えなかった
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	1．残した　2．残さなかった
	不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。	
	現地立会いを実施し、谷津の状況や生物の生息等について情報の提供をいただいた。	
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。	
	市民に対して、イベントごとのちらし配布やスクリレ配信を利用しながら、活動の内容の周知を行った。	
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	協働事業計画書のとおり実施することができた。	
	Q15 資金負担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	協働事業実施計画書のとおり執行していることを確認した。	

記入団体名　NPO法人亀成川を愛する会

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

	設問	回答			
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○			
	実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	①緑地の生きもの環境の回復などについて、専門家の調査や助言を得ることができた。 ②先進地であるNPO富里のホタルの見学会や、その会員の専門家を招いての緑地の見学やワークショップが有効だった。 ③市民参加は、後半になるにつれて、少なくなったのは残念だ。 ④一連の事業を通して、担当課にも当該場所の重要性を理解していただけたのではないかと思量する。				
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○			
	達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	別添PDF参照（最終ページ）				
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○			
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。				
	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
		○			
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。				
	①印西市の谷津の生物多様性の保全について、市にアピールすることができた。 ②市民参加で市の緑地の生物多様性を守る必要を市当局と市民にアピールできた。 ③行政のスクリレ配信など協力があったことも大きな力となった。				
	Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	1．思う	2．思わない		
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。				
	印西市の生物多様性の宝庫である谷津の保全の必要性について、行政側からPRするスクリレ配信など、今後も発進し続けていくことが、少しずつでも、市民の関心を高めることになる。ただ会の活動が忙しすぎて、市で発信できるイベントを一部しか頼み切れなかったことが悔やまれる。				

記入団体名　都市整備課

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

	設問	回答			
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○			
	実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	昆虫調査やトンボ調査等を行い、計画どおり進めることができた。				
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○			
	達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	トンボ調査を18回、昆虫調査を7回、ゲンジボタル調査を16回、草刈りを17回実施することで、生物多様性を維持増進するための方法や検討に必要となる資料を取集することができた。				
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○			
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。				
	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
		○			
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。				
	イベント等に参加した来場者との意見交換等を行い、自然がもつ親しみのある場づくりに努めている。				
	Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	1．思う	2．思わない		
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。				
	生物多様性が維持・増進できる環境を整備するために、生物多様性調査を実施することができた。 また、市民参加型の自然観察会や保全活動の実施を通じて、市民に当該地域の自然価値を伝えることができた。				

記入団体名　NPO法人亀成川を愛する会

今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
①ホタルやトンボなどの水生昆虫の生息環境を復活、再生するための詳細なゾーニング図とスケジュールを作成し、作業を進める。 ②都市整備課と相談しながら、まちづくりファンド獲得のための準備をする。 ③2026年度の事業計画を作成し、市民参加を促進する。そのことによって、他の谷津においても保全参加の市民を育成する。

記入団体名　都市整備課

今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
今後についても、引き続き、団体と協働しながら自然価値を高められるよう、保全方法の検証と改善、市民が自然とふれあう方法の検討を行っていきたい。

令和7年度第3回　　別添Q17

印西市協働事業「市民参加で守る別所谷津公園の谷津の生態系」事業目標と達成値（回数・人数）

事業名	月日	目標回数	内容	会員参加者数	一般参加者数	目標人数
トンボ調査	4/22.29,5/20.21.22.24.29,6/19.20,7/4.14,8/18,10/13.15	3回	トンボ調査	20	6	15
ゲンジボタル調査	5/15.18.20.23.25.30.31,6/1.5.7.8	2回	ゲンジボタル調査	19	9	10
ヘイケボタル調査	7/4.5.7.13.14.17.21	2回	ヘイケボタル調査	15	1	10
底生生物調査	9/29,12/7,2/8	1回	ホタルの餌などの底生生物調査	14	5	4
昆虫調査	4/23,5/8.21,6/19,7/4.16,10/13	4回	昆虫調査	12	2	4
トンボ専門家助言	5/25,12/8	1回	トンボの専門家（日本トンボ学会会長苅部治紀博士や神奈川トンボ調査・保全ネットワークのメンバーによる現地環境調査等の結果による緑地でのトンボ環境改善のための助言、提案を受けた。	10	7	4
トンボ見学会	5/26,	1回	一般を対象に緑地の見学を兼ねてトンボ観察会を実施	6	32	10
ホタル専門家助言	6/1,7/17	2回	ホタルの専門家を招いて、緑地及びベ諸地域を案内し、印西のホタルの生息環境を確認したうえで、緑地でのホタル保全のための助言、意見をいただいた。	4	2	5
NPO富里のホタルフィールド見学	6/2,	1回	NPO富里のホタルのフィールド見学と意見交換会	16	6	10
NPO富里のホタルの緑地見学、助言・指導	7/28,		NPO富里のホタルのホタル専門家による緑地視察とワークショップによる指導、助言	8	5	
ワークショップ	11/3,		市民に緑地を案内し、ワークショップ形式で、緑地活用のための意見、提案をきいた。	9	11	10
保全作業	4月6回、5月4回、6月1回、7月4回、9月2回、10月5回、11月2回、12月4回、2月1回、3月5回	6回	草刈、集草、かかり木処理、ヤナギ伐採	117	14	29
市関係	4/4.24,6/20,7/25,3/21	6回	事業についての話し合い、現地検分	13	17	9
			参加人数計	263	117	120

上記行事のほかに、ホタル観察会を2回実施し計73名、生きもの観察会2回実施で計40名の参加。

印西市企画提案型協働事業　事後評価シート（比較表）

記入日　令和7年5月11日
記入団体名　ﾍﾞｼﾞｶﾞｰﾙｽﾞ
※市の場合は、所管部署名
記入責任者名　島　美由紀

記入日　令和7年5月15日
記入団体名　健康子ども部保育幼稚園課
※市の場合は、所管部署名
記入責任者名　稲富　俊輔

1．事業概要

事業名称		保育園年長児に向けた運動支援「年長さん思い出プロジェクト」
事業の実施者	実施団体名	ベジガールズ　全世代に向けた運動支援
	所管部署	健康子ども部保育幼稚園課

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問	回答			
Q1 申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	(1.)実施した　2．しなかった			
Q2 相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	○			
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。				
資料作成について担当コーディネーターや担当課に分かりやすく作成した。気になった点として、初めて協同事業を出す団体にはコーディネーターの説明が難しいところもあり認識の違いが生じ、すれ違いがあったように感じた。				

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問	回答			
Q3 事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	(1.)した　2．しなかった			
Q4 お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	○			
Q5 協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	○			
Q6 共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	○			
Q7 互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	○			
Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○	
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。				
どのような形で成果を出すことが期待されているのか確認しきれなかった部分があった。				

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問	回答			
Q1 申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	(1．実施した)　2．しなかった			
Q2 相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○		
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。				

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問	回答			
Q3 事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	(1．した)　2．しなかった			
Q4 お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○		
Q5 協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○		
Q6 共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○		
Q7 互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○		
Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○		
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。				

記入団体名　ﾍﾞｼﾞｶﾞｰﾙｽﾞ

協働事業実施中

設問	回答			
Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1．行った　(2.) 行えなかった			
Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○	
Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	○			
Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	(1.) 残した　2．残さなかった			

不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。

問9，10について。担当課との連絡に関しては不十分だが、園との連絡や課題については十分できた。また、園都合の日程変更にも柔軟に対応できた。メールで連絡をとることによって記録として残した。

協働事業実施後

設問	回答			
Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○	

成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。

活動の様子や成果を公表することを望んでいなかったため、データを共有できる場があると良かった。データを共有することで多くの市民の方へ成果が届くと感じる。

Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	(1.) 適切　2．適切でない

回答の理由を詳しく記入してください。

円滑に実施することができたが、園への連絡は課を通すのか直接なのか聞く方によって回答が違ったため、初めの段階でもう少し明確にしておけば良かったと思う。

Q15 資金負担は適切でしたか。	(1.) 適切　2．適切でない

回答の理由を詳しく記入してください。

初めての試みだったため予定していた無償労働分のミーティング回数が増えてしまったが、結果、安全に実施することができたので適切と考える。

記入団体名　健康子ども部保育幼稚園課

協働事業実施中

設問	回答			
Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	(1．行った)　2．行えなかった			
Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○		
Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○		
Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	(1．残した)　2．残さなかった			

不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。

協働事業実施後

設問	回答			
Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○	

成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。

保育園児を対象とした協働事業のため、市民への情報発信は行っていない。

Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	(1．適切)　2．適切でない

回答の理由を詳しく記入してください。

企画提案型協働事業提案書の通り、役割分担を行い事業の実施が行えた。

Q15 資金負担は適切でしたか。	(1．適切)　2．適切でない

回答の理由を詳しく記入してください。

事業実施に必要となる人件費及び消耗品が資金負担の大半であり、協働事業の実施に当たり必要不可欠な資金負担であると認識している。

記入団体名　ﾍﾞｼﾞｶﾞｰﾙｽﾞ

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

	設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	○			
	実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。 予定通り全園6回ずつ実施することができた。園都合の日程変更にも柔軟に対応でき、理学療法士のデータ取りもできた。運動の楽しさ大切さ身体の仕組みを知ってもらう機会、運動のきっかけ作りの提供ができた。園児、先生にバランスボールの魅力を知ってもらうことができた。最終目標としていたブリッジは定期的に実施している園に目標を合わせたため、目標レベルが少し上がってしまったように感じる。				
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	○			
	達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。 各園6回ずつ実施。園児80名、先生8名へ運動指導できた。				
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	○			
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。				
	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった ○	あった	一部課題があった	効果がなかった
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。 公立保育園で運動指導の機会をもらえたこと。				
	Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	(1.)思う　2．思わない			
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。 当初かかげた目標に貢献することができた。				

記入団体名　健康子ども部保育幼稚園課

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

	設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。		○		
	実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。 計画書に記載された打ち合わせ、事業実施回数のとおり実施できた。				
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。		○		
	達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。 プログラム作成・編集・確認のため5回の打ち合わせを実施し、各保育園で計6回にわたり事業を実施した。参加人数は延べ442名となり、対象である5歳児の姿勢矯正効果等が認められた。				
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	○			
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。				
	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった	あった ○	一部課題があった	効果がなかった
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。 児童の体力向上等を図るため、保育園職員だけでは実施困難な理学療法士等の専門的見地からの指導が行えた。				
	Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	(1．思う)　2．思わない			
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。 児童の姿勢と片足立ちの継続時間を事業実施前と実施後に測定した結果、姿勢矯正並びに片足立ち継続時間が増加したことから、課題に挙げられていた運動不足による筋力低下の改善に一定の効果があった。				

記入団体名　ﾍﾞｼﾞｶﾞｰﾙｽﾞ

今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
年中児にも対象を拡大したい。年中児は0歳の時からコロナ過で大切な時期に運動制限や外部との触れ合いが遮断されていた時期もあるので早めのアプローチを考える。展望としては年中～年長へ月に1度のレッスンを継続して行いたい。カリキュラムに入っている園では成果が出ているため。最終的には年少～年長と拡大し、発達に応じて適切な動きを取り入れ3年間にわたりサポートしたい。

記入団体名　健康子ども部保育幼稚園課

今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
令和7年度においても、引き続きベジガールズと5歳児の体力向上に向けた事業を実施する。

印西市企画提案型協働事業　事後評価シート（比較表）

記入日　令和7年5月13日
記入団体名　みんなのいっぽ
※市の場合は、所管部署名
記入責任者名　伊藤かおり

記入日　令和7年5月13日
記入団体名　環境保全課
※市の場合は、所管部署名
記入責任者名　増田　秀俊

1．事業概要

事業名称		グリーンカーテンでゼロカーボン「CO2を減らそう！ストップ温暖化大作戦！」
事業の実施者	実施団体名	みんなのいっぽ
	所管部署	環境保全課

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

	設問	回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	(1．実施した)	2．しなかった		
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。					

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

	設問	回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	(1．した)	2．しなかった		
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。					

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

	設問	回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	(1．実施した)	2．しなかった		
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。					

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

	設問	回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	(1．した)	2．しなかった		
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。					

記入団体名　みんなのいっぽ

	設問	回答
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	(1. 行った)　2. 行えなかった
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた：　できた：○　不十分：　全くできなかった：
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた：　できた：○　不十分：　全くできなかった：
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	(1. 残した)　2. 残さなかった
	不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。	
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた：　できた：○　不十分：　全くできなかった：
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。	
	公式LINE、インスタグラム、youtubeを活用し、定期的に配信した。グリーンカーテンコンテストのエントリー作品はインスタグラムにて共有した。大賞の作品については、youtube動画を作成した。	
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	(1. 適切)　2. 適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	環境保全課から、公共施設での種や苗の配布、グリーンカーテンの設置や学校での出前授業において、各施設との事前の連絡や調整うをしていただけたことで、スムーズに取組むことができた。その分、当団体は、種や苗の準備やグリーンカーテン大作戦を周知する活動に集中して取組むことができた。	
	Q15 資金負担は適切でしたか。	(1. 適切)　2. 適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	市の指定テーマ型協働事業として指定されたテーマを遂行するにあたり、その事業に必要な資材等事業経費とした。必要な経費を適切に管理し事業を行った。	

記入団体名　環境保全課

	設問	回答
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	(1. 行った)　2. 行えなかった
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた：　できた：○　不十分：　全くできなかった：
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた：　できた：○　不十分：　全くできなかった：
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	(1. 残した)　2. 残さなかった
	不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。	
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた：　できた：○　不十分：　全くできなかった：
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。	
	グリーンカーテンコンテストを実施し、コンテストの結果を市ホームページ及び団体のSNSで情報を発信した。	
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	(1. 適切)　2. 適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	契約の仕様及び協定書で示したとおり、双方の役割分担や責任分担を明確にして事業を実施することができた。 市：①事業の周知・啓発に関すること。②事業に係る必要な助言等を行う。③本事業に係る運営の補助に関すること。④本事業の際に公共施設等を使用する場合の会場の確保に関すること。 団体：①安定的かつ効果的な事業の実施を行う。②事業に必要な調整を市と行う。③種・苗の購入、育成、配布等に関すること。④事業の企画・運営に関すること。⑤事業の周知・啓発に関すること。	
	Q15 資金負担は適切でしたか。	(1. 適切)　2. 適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	事業の実施に際し、事業費として適正な資金であった。	

記入団体名　みんなのいっぽ

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

協働事業実施後

設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	○			

実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

種や苗の配布(750袋、780苗）公共施設へのグリーンカーテン設置（7か所）、学校での出前授業（2校）を計画通り実施し、グリーンカーテンコンテストにつなげることができた。

	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。		○		

達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

目標値
公式ライン登録者数　目標80人増→結果188人（昨年より121人増）
コンテスト応募数　目標（R3年の5倍）→結果44件（R3の約4倍）
環境講座受講数　目標300人→結果340人
市民に活動を周知する点においては着実に増えているが、コンテスト応募については微増のため今年は力を入れていきたい。（酷暑のためプランターでのゴーヤの育成がうまくいかないケースが散見している。育成のポイントについての発信にも力を入れていく。）

	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q18 経費の支出は適切でしたか。		○		

適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。

	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	○			

効果があった点や課題を具体的に記入してください。

公共施設や学校でのグリーンカーテンの設置、種や苗の配布は、協働事業であるからこそスムーズに取組むことができ周知することができた。単独の事業だと関心のある人にしか広まらなかったが、協働事業で学校での出前授業に取り組めたことで、関心のない子どもやその保護者にもきっかけを作ることができた。

Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	(1．思う)　2．思わない

改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。

グリーンカーテン大作戦が周知されてきてグリーンカーテンにチャレンジしたり関心をもつ人が増えてきた。周知されたおかげで種がすぐになくなってしまう場所が増えた。今後の種の配布数や配布場所について検討していく。また、酷暑の日が増えプランターでのグリーンカーテンが育ちにくい場合が出てきている。酷暑でも育つ工夫や植物なども検討していく。

記入団体名　環境保全課

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

協働事業実施後

設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。		○		

実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

当初予定していた、市内における各イベント時での苗の配布、小学校への出前講座及び苗の配布、市内各公共機関での種の配布、イオンモール千葉ニュータウンでのクールシェアにおけるイベントへの参加などを実施することができた。

	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。		○		

達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

【種の配布：750袋配布】
中央駅前地域交流館1号館（100袋）、中央駅前地域交流館2号館（100袋）、船穂コミュニティセンター（50袋）、市役所本庁舎（150袋）、印旛支所（100袋）、本埜支所（100袋）、サザンプラザ（50袋）、草深公民館（100袋）
【苗の配布：780苗配布】
①5月12日イベント（40名参加、30苗配布）、②5月13日イベント（50名参加、20苗配布）、③5月20日イベント（180名参加、100苗配布）、④5月25日イベント（15名参加、20苗配布）、⑤6月3日イベント（160名参加、100苗配布）、⑥6月8日イベント（430名参加、350苗配布）、⑦施設での配布（サザンプラザ50苗、本埜ファミリア50苗）⑧スタッフによる苗配布（随時・60苗配布）

	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q18 経費の支出は適切でしたか。		○		

適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。

	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。		○		

効果があった点や課題を具体的に記入してください。

市単独で同事業を実施していた時に比べ、より多くの市民に対して効果的に苗を配布することができ、グリーンカーテンの啓発に努めることができた。また、グリーンカーテンの設置や撤去を苦にして実施できなかった施設などにも団体による支援により、設置することが可能になった。

Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	(1．思う)　2．思わない

改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。

本事業を通し、これまで以上にグリーンカーテンを活用した温暖化対策や脱炭素化について市民への意識の向上を図ることができた。

記入団体名　みんなのいっぽ

今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
・出前授業の学校数を増やしていく。牧の原周辺の大規模校だけでなく、ニュータウン地域の学校でも出前授業して環境意識の啓発やグリーンカーテン大作戦の参加者を増やす。 ・グリーンカーテンコンテストのエントリー数を増やす。（R3年度の5倍） ・感想やアンケートをとり今後の活動に生かす。

記入団体名　環境保全課

今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
種の配布について、例年早々に捌けてしまうため、次年度は配布方法を検討する。 公共施設でのグリーンカーテン設置を行ったが、地面からの照り返し等でうまく育たなかった事例があったため、次年度以降は改めて設置場所等について検討する。 出前講座による環境学習の一環として原小学校、牧の原小学校において、グリーンカーテン設置やその効果について講座を行い、子供たちに対して地球の温暖化問題に対する意識啓発を行うことができた。次年度はさらに小学校を増やして実施することを検討する。 グリーンカーテンを設置した市民を対象としたグリーンカーテンコンテストについても、これまでに実施したコンテストよりも多くの申し込みがあり、コンテスト参加者の感想でも省エネや節電及びCO_2削減に対する前向きな意見が多く見られ、環境意識の向上を図ることができた。

印西市企画提案型協働事業　事後評価シート（比較表）

記入日　令和7(2025)年 5月 14日
記入団体名　NPO法人エコネットちば
※市の場合は、所管部署名
記入責任者名　小熊　清

記入日　令和7年5月15日
記入団体名　都市整備課
※市の場合は、所管部署名
記入責任者名　野村

1．事業概要

事業名称		竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業
事業の実施者	実施団体名	NPO法人 エコネットちば
	所管部署	都市整備課

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

	設問	回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	(1.)実施した　2．しなかった			
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。					

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

	設問	回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	(1.)した　2．しなかった			
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。					

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

	設問	回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	(1．実施した)　2．しなかった			
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。					

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

	設問	回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	(1．した)　2．しなかった			
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。					

記入団体名　NPO法人エコネットちば

協働事業実施中

設問	回答
Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	(1. 行った)　2. 行えなかった
Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	(1. 残した)　2. 残さなかった

不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。

協働事業実施後

設問	回答
Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった

成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。

・花畑の開花状況を市HPや広報いんざいで紹介、市民活動支援センターHPに掲載依頼。周辺地域の町内会掲示板にもポスターを掲示させていただいた。更に、近隣幼稚園や高齢者施設にポスターをお届けして、お散歩コースでの立ち寄りを声掛けご案内。地域のケーブルTVでも放映していただいた。

Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	(1. 適切)　2. 適切でない

回答の理由を詳しく記入してください。

・適時、情報提供や相談を実施して、情報交換に努めている。

Q15 資金負担は適切でしたか。	(1. 適切)　2. 適切でない

回答の理由を詳しく記入してください。

・維持管理業務委託契約金並びに団体負担金にて実施

記入団体名　都市整備課

協働事業実施中

設問	回答
Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	(1. 行った)　2. 行えなかった
Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	(1. 残した)　2. 残さなかった

不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。

現地立会いを実施し、樹木の枯損や施設の劣化等について情報の提供をいただいた。

協働事業実施後

設問	回答
Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった

成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。

広報誌やホームページで季節の花の開花情報を掲載した。

Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	(1. 適切)　2. 適切でない

回答の理由を詳しく記入してください。

協働事業計画書のとおり実施することができた。

Q15 資金負担は適切でしたか。	(1. 適切)　2. 適切でない

回答の理由を詳しく記入してください。

協働事業計画書のとおり執行していることを確認した。

記入団体名　NPO法人エコネットちば

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

協働事業実施後

設問	回答			
	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	○			

実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

草刈り、花畑の植栽等の維持管維業務は計画通り実施完了。

	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	○			

達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

秋に実施予定のイベント(コスモスふれあいまつり)はコロナ以降は中止。花畑を開放して、コスモス・ひまわりの刈り取りに花畑を開放し楽しんでいただき、春には面積を拡大した芝桜を大勢の来場者に楽しんでいただいた。

	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q18 経費の支出は適切でしたか。	○			

適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。

	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	○			

効果があった点や課題を具体的に記入してください。

・訪れる皆さんに好評な芝桜の植栽エリアの除草を頻繁に実施、その効果で見事な開花となり、大勢の来場者に楽しんでいただけた。

Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	(1.)思う　2．思わない

改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。

・コロナも収束、外出等の制限が緩和され、皆さんの外出機会増えて、ひょうたん島池の「コスモス・芝桜」が評判になって、地域の憩い癒しの場になりました。

記入団体名　都市整備課

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

協働事業実施後

設問	回答			
	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	○			

実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

10月にイベントを開催し、計画どおり実施することができた。

	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	○			

達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

花畑の整備や日々の草刈りを7回、ゴミ清掃等の活動により快適な景観維持と環境美化が図られた。また、「芝桜祭り」、「コスモスまつり」の開催により、約4，700名の来場者が訪れ、地域の憩いの場とすることができた。

	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q18 経費の支出は適切でしたか。	○			

適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。

	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	○			

効果があった点や課題を具体的に記入してください。

来場者との意見交換等を行い、地域コミュニティの形成に寄与している。

Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	(1．思う)　2．思わない

改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。

定期的な草刈り、花壇の整備等を通じて、自然豊かな景観を保全することができた。

記入団体名　NPO法人エコネットちば

今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
・訪れる人の心が和む印西の花名所として、より多くの皆さんが来ていただけるよう花植えなどに工夫を凝らしながら、環境整備と維持管理に努めていきたい。

記入団体名　都市整備課

今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
市民団体の継続した活動により、四季の花の観光名所として定着し、多くの方々のコミュニケーションの場となっている。 引き続き、団体と協働し、多くの来場者が楽しめる環境づくりに取り組んでいきたい。